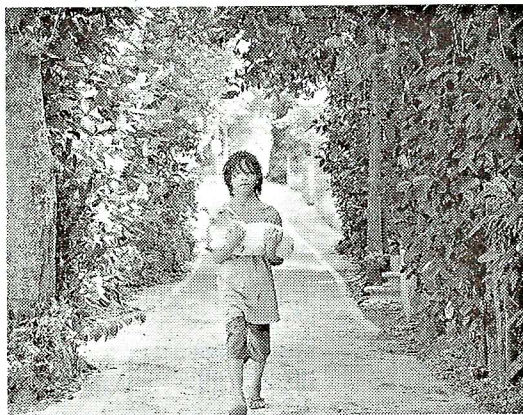


中学生監督 沖縄を撮る

朝日 2011.1.4

沖縄の中学生が撮った80分超の長編映画「やぎの冒険」が、8日から東京の映画館で上映される。1匹のヤギと少年の姿を通して沖縄の素顔を見つめ、中学生の作品では異例の劇場公開にこぎつけた。

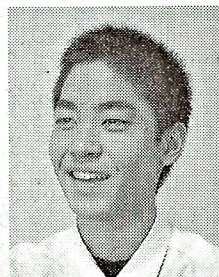
(井上秀樹)



映画「やぎの冒険」から

監督したのは、沖縄市立沖繩東中学3年の仲村颯悟さん(14)＝写真。現在の沖縄の、リアルな姿を映画にしたかった」と話す。

作品は、那覇市の小学生が冬休みにオジイ、オバアが暮らす沖縄本島北部を訪ねる物語。少年は、子ヤギが食用につぶされるのを目の当たりにする。逃げた別のヤギを追いかけるが、捕まえればつぶされてしまう。生き物を食べるこの意味を知ることによる少年の成長を映した。



東京・横浜で上映

観光振興を図る2009年の「沖縄観光ドラマコンペティション」への応募企画が土台。脚本や撮影はプロが手がけたが、演出は10代が感じる「リアル」にこだわった。コンビニエンスストアで朝食を買う場面では「小学生は小遣いを自由に使いたいから、サンドイッチは買わない」と安価なメロンパンに変更。「普通の沖縄を映したい」と、米軍基地移設に賛成する村議選候補者も登場させた。

仲村さんは、自宅にあったビデオカメラへの興味が高じて小学2年のころから「作品」を撮り始めた。ヒーローものやホラー、友情ドラマなど30本以上の短編を自主制作してきた。「大人に意見を伝えるのは怖かったけど、技術のあるスタッフできれいな映像を撮るのは楽しかった」

井手裕一プロデューサーは「映像を人に見せる心構えがある。どうすれば客が喜ぶかを本能的に知っている。中学生に撮らせたつもりが、撮られた感が大きい」と振り返る。

製作会社によると、中学生が監督した映画が劇場公開されるのは初めてではないかという。昨年9月から沖縄県内で先行上映され、約4万人の客を集めた。

今年8日から東京の池袋テアトルダイヤや横浜のプリリアシヨートシヨートシアターなどで上映。大阪でも上映が決まっている。